

科目名	空間プレゼンテーション技法		
授業形態	演習	学年	1
開講時期	2022年度 後期	単位数	1
担当教員	新妻 多恵子		
内容および計画	<p>デザインの各分野では、社会の様々な場面で自らがデザインした成果や可能性を分かりやすく伝える表現力が求められる。また、建築士やインテリアコーディネーター、インテリアプランナーの実技試験では手描きによる図面表現やこの講義で学ぶ透視図による空間表現が課せられている。ここでは「設計製図」や「CAD演習」等で学んだ空間の二次元的な表現方法から、さらに三次元的に伝えるための表現方法について学ぶ。基本的な図面の意味や読み方、立体的な図面の描き方を学び、自ら三次元的な空間を把握できるようにするとともに、第三者に伝えられるようにする。また、これらをもとにしたアイソメ、アクソメ図、透視図の描き方、表現方法を身につけることで、三次元的な空間を理解し人々に伝えられるようにする。さらに空気遠近法等についても学び、プレゼンテーションとして必須なカラーリング、陰影表現、添景表現を実践する。講義の最後にはこれらを集約してプレゼンテーションボードにまとめ、またパワーポイント等のソフトを活用した効果的な表現や文章作成、口頭発表の技術についても触れる。</p>		
1	ガイダンス：様々な空間表現の種類と方法、課題説明		
2	様々な空間表現、透視図、遠近法等について：1点透視図法の理論と実践		
3	様々な空間表現、透視図、遠近法等について：2点透視図法の理論と実践		
4	家具をアクソメトリック（アクソメ）図法で表現する		
5	空間をアイソメトリック（アイソメ）図法で表現する		
6	1点透視図法（1消点法 one-pointperspective）①空間を描く		
7	1点透視図法（1消点法 one-pointperspective）②家具を描く		
8	1点透視図法（1消点法 one-pointperspective）③仕上を描く、着色		
9	プレゼンテーションの構成 プレゼンボードの作成①：自らデザインしたパーソナルスペースのコンセプト構成		
10	プレゼンテーションの構成 プレゼンボードの作成②：自らデザインしたパーソナルスペースのアイソメ図または透視図の作成、着色		
11	プレゼンテーションの構成 プレゼンボードの作成③：プレゼンボードのレイアウト、テキスト構成		
12	プレゼンテーションの構成 プレゼンボードの作成④：自らデザインしたパーソナルスペースのテクスチャ(素材・色見本等)を構成する		
13	パワーポイントとデザインプレゼンテーション		
14	プレゼンテーションの完成：プレゼンボードとパワーポイントを構成する		
15	プレゼンテーションの実践：プレゼンボードとパワーポイントを用いて発表を行う		
教科書			
	タイトル	著者名	出版社
必要に応じて適宜資料を配布する。「設計製図」で使用した教科書「やさしく学ぶ建築製図 改訂版」を使用する。			
参考書	<p>1) 齋藤裕子「これならわかる!インテリアコーディネーター集中テキスト&amp;問題集」ナツメ社  2) 中山繁信「手で練る建築デザイン」彰国社  3) 松下季和・長沖充「やさしく学ぶ建築製図 改訂版」エクスナレッジ社</p>		
成績評価			
	評価方法	割合(%)	
出席・受講状況		20	

課題・提出物	80
<b>学習到達目標</b>	立体図法、透視図法に必要な平面図・断面図・展開図を理解した上で、アクソメ図・アイソメ図、透視図法等を描けるようにする。また、自らデザインした空間のアイソメ図・透視図を作成し、さらにそれらをプレゼンボードやパワーポイント等にまとめ、口頭発表する。
<b>先修条件</b>	「表現方法論」「設計製図」を受講すること。
<b>実務経験</b>	実務経験あり：夫（一級建築士）と共に設計事務所を共同主宰。建築設計業務歴 20 年、住宅設計においてはおよそ 60 棟以上の設計実績を持つ。他、事務所、商業施設、福祉施設等。主としてプレゼン業務を担当している。これらの経験をもとに空間を伝えるための表現方法、応用について教授する。
<b>その他</b>	必修・選択の別：選択、立体系(インテリア・クラフト・プロダクト)分野は特に履修を勧める。